

ひなぐ

編集・発行／都城市PTA連絡協議会
都城市姫城町7街区8号
TEL.0986-24-5312
FAX.0986-24-2812
E-mail: mmpta@bz03.plala.or.jp



熊襲踊



夫婦踊



南洲太鼓



水道音頭

「創立150周年」

都城市立庄内小学校は、2020年2月2日に創立150周年記念式典を開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、本校では、4つの民俗芸能を地域と学校で大切に継承しています。

宮崎県内の修学旅行

明和小学校
六年 中村 優花

「おはよう。よかったね。」

修学旅行の朝が来ました。例年は鹿児島への修学旅行ですが、今年はコロナの影響で県内の旅行ということになり少し残念でしたが、それでも修学旅行に行けることがうれしかったです。

私が修学旅行で、心に残った思い出は四つあります。

一つ目は、都井岬で見た御崎馬や都井岬灯台です。

御崎馬は、昭和28年(1953年)に純粋な日本在来馬として国の天然記念物に指定されました。主な特ちょうは、体長・体高ともに130cm内外で、毛色は主に鹿毛と青毛で、栗毛は極めて少なく、背中に縋線のあるものが多く見られる馬で、近くで見たら、とてもきれいな毛並みをしていたので、本当に自然の中で育っているんだなあと思いました。都井岬灯台は宮崎県の最南端に位置しており、現在も航行する船舶の目印として活躍している灯台です。灯台に登ってみると遠くの海まで見えてとても心が洗われた気持ちになりました。木、「海」、「崖」がそろった画がとても印象に残りました。都井岬灯台は九州で唯一の参観可能な灯台で有名なところでもあります。

二つ目は、サンメッセ日南で見たモアイ像です。モアイ像は一度倒れかけていましたが、サンメッセ日南に世界で唯一7体のモアイ像(アフ・アキビ)を完全復刻することができた有名な場所です。右から学力運、金運、結婚運、全体運、恋愛運、健康運、仕事運とされており、モアイ像にタッチすると願いが叶うといわれていますが、私は分らずにタッチしていたけど全部に触れていたのよかったです。

三つ目は、二日目のフェニックス自然動物園です。友だちとたくさんの動物を見ました。特に心に残ったのは、チリーフラミンゴです。チリーフラミンゴは全長105cm。全身は淡いピンク色の羽毛で覆われている動物で、とてもきれいでした。

四つ目は、シェラトングランデオアシャンリゾートのガーデンピュッフェです。オアシャンリゾートの「バインテラス」でお昼ご飯を食べました。ご飯は、生活班で食べました。食べるところでは、ソーシャルディスタンスを守りながら自分でお皿を持って好きなご飯やデザートをたくさん取って食べました。私は特に、ローストビーフがとてもおいしかったです。普段あまり食べられないものだったのでよりおいしく感じました。

私が、修学旅行を通して学んだことは、活動班や生活班で行動するときは、周りを見ながらみんなと行動したり、自分勝手な行動はしないでしっかり先生の話を聞きながら修学旅行を楽しんだりすることでした。それと今回は、宮崎県内旅行でしたが、自分の知らない県内の素晴らしいところを改めて発見することができました。また、このコロナ禍で、私たちの修学旅行にかかわってくださった多くの方々に感謝したいと思いました。



小学校最後の運動会

沖水小学校
六年 大形 らら

みなさん、今日の運動会は、どうでしたか。私は、みんなと運動会ができてとてもうれしかったし、精一杯がんばることができてよかったです。

今年の運動会は、私にとって小学校最後の運動会でした。毎年お母さんやおばあちゃんのお作ってくれた大好きなお弁当を家族みんなで食べることが運動会の楽しみでしたが、午前中の開催となり、みんなでお弁当が食べられなくなりました。また、リーダーたちとの声を出しての応援もすることができなくなりましたので、とてもうれしかったです。

しかし、やる気を失いかけていた私たちを、先生たちが励まし、サポートで勇気づけてくれました。このような状況の中で、どの回もスローガンにあるとおり、「心を一つに全力を尽くす」運動会だったと思います。この日のために、同級生のリーダーたちは、昼休みに何度も練習し、今日も声を出すことができない私たちの分まで声を張り上げていました。私も最初で最後の奴踊りをどこから見てもきれいに並んで見えるよう、ていねいに踊ることができました。

最後になりましたが、今日の運動会を開催していただきありがとうございます。沖水小の子どもでよかったなと思ったり、記憶に残る行事になりました。運動会を計画・準備してくださった先生方、PTAの方々、そして保護者の皆さんの応援のおかげです。本当にありがとうございました。

コロナ禍で今、思うこと

五十市小学校
六年 徳重 大和

ぼくが、コロナ禍の生活においてできなくなったことが、三つあります。

一つ目は、学校が長い間休みになり、友達といっしょに勉強をすることができなくなったことです。休校が始まる前は、いつも通り学校に行き、友達との楽しい学校生活がありました。休みになり、家で勉強すると、集中力もなく、友達といっしょに勉強したいと思いました。

二つ目は、友達と昼休みに元氣いっぱい遊ぶことです。ぼくは、毎日、昼休みに外で遊んでいたけど、学校が休みになると、遊ぶ時間はないという気持ちにはなりません。

三つ目は、給食を食べることです。いつもなら、話したり、笑ったりとみんなで楽しく給食を食べていました。しかし、休みにになり、親も仕事に行くと、姉と二人だと話しますが、あまり盛り上がりません。学校で友達と一緒に食べたいと思います。今は、感染に注意しながらふつう通りに学校に行っています。休みが終わったときは、とてもうれしかったです。学校の存在、友達の大切さを強く感じました。だから、一刻も早く、日本からコロナ感染症がおさまってほしいです。

宮崎のすばらしさを再発見の旅

菓子野小学校

六年 宮島 希愛来

今回の修学旅行を一言で表すと「感謝」です。いろいろな場所で説明をしてくださった方や先生方、家族の方のおかげで、たくさん学べて、楽しい修学旅行になりました。それで、私は、今回の修学旅行を「感謝」だと思いました。

コロナウィルスの影響で、宮崎県内の修学旅行になったことに対して、はじめは少し残念だと思いましたが、宮崎県のいろいろなところに行ってみて、改めて宮崎には豊かな自然とすてきな歴史があることが分かり、宮崎っていろんなところがあって、すごいなと思いました。

今回の経験や思い出を生かして、「感謝」を忘れずに、これから出会ういろいろな人たちと、協力していきたいです。



コロナ禍の生活において感じたこと

明道小学校

六年 有木 結子

私がコロナ禍での生活において感じたことは、何もかもが当たり前ではないということです。

去年の一月、新人戦がありました。私が明道バレーボールクラブのキャプテンとしての初めての試合でした。

私は、その時から、キャプテンとして、みんなをまとめて良いチームを作りたい、そして、試合では、良い結果が残るように頑張るぞと、とても張り切っていました。

しかし、新型コロナウイルスが全国で流行り始め、学校が休校の時期がありました。学校が休みなで、バレーの練習も休みになりました。

それまでは、予定されていた試合は当たり前で開催され、勝ったら嬉しいという気持ち、敗れたら悔しいという気持ちが私の心の中にありました。しかし、去年はバレーの練習も出来ず、試合は次々と中止になっていききました。この状況が続く、私は、張り切っていた分、とても残念な気持ちでいっぱいでした。

私は、練習が出来ること、試合が開催されることは当たり前ではない、ということを感じてきました。

状況が少し落ち着くと、練習が再開され、試合も感染防止対策が徹底された上で開催されるようになりました。私は、バレーが出来ることと自分が嬉しい気持ちでしたが、試合が出来ることはもっと嬉しく、また張り切って練習に取り組みました。練習する目的や目標がもてたからだと思っています。

今後、どのような状況になるかわからないけれど、今、感染拡大防止の為に頑張っている方々に感謝して、自分も十分注意して過ごしていきたいと思っています。また、練習出来ることに感謝し、その時間をこれからも大事にしていきたいと思っています。

都城歴史資料館で学んだこと

富吉小学校

六年 襲山 千夏

11月、私は平和学習をするために、都城歴史資料館に初めて行きました。みんな新型コロナウィルスの対策としてマスクをつけて、移動中のバスの中も密にならないように座席を空けて座りました。資料館に着くと建物がお城みたいでとてもおもしろかったです。私達が資料館に行った時には、「あの日を忘れない」太平洋戦争と都城」という企画展をやっていました。資料館に入ると、戦時中の写真や資料などの展示物がたくさんありました。戦争のことを資料館の方に解説していただきました。私は今回の学習で初めて知ったことが二つありました。

一つ目は、今は当たり前のようにくつをはくのに、戦時中の子供達は、くつをはくことができなかったということです。展示資料の中には、はだしで校庭を走っていた子供達の写真がありました。私は、とても足が痛いし、冬の寒い日は辛かっただろうと思いました。

二つ目は、戦争が終わり空襲のない安全な生活がもたらされたけど、食糧不足が深刻になったということです。戦時中だけでなく終戦後も当たり前にご飯がたべられないのは、とても苦しかったと思います。今は食事に苦労することも少なくなりましたが、その頃の子供達は、私達のようにお腹いっぱいにご飯が食べられなくてかわいそうだと思いました。

私は、今回の学習を通して、二度と戦争が起こらない平和な世の中であるためには何が必要なのかを学び続けたいと思います。更に、今世界中で多くの人は新型コロナウィルスと戦う日々が続いています。私も「もしかしたら自分も感染するんじゃないか」と不安な毎日を送っています。戦時中ほどではありませんが、マスクの着用や消毒等、生活に色々な制限もあり、当たり前前の生活のありがたさを感じています。私は戦争だけでなく新型コロナも含め世の中でおこる様々な問題が解決して、みんなが幸せに暮らせる日が早く来ることを強く願っています。

コロナを通して考えたこと

高崎麓小学校

六年 木下 碧人

ぼくは、今年、コロナを通して考えたことが二つあります。

一つ目は、普段当たり前前に感じていることは、本当は当たり前ではないということです。ぼくは、これまで、たくさんの野球の試合や大会をしてきました。でも今年、試合や大会がなくなってしまうと、なんでぼく達だけできないのだろう」と悲しくなりました。そして、これまでを振り返ってみると、試合ができるのは、みんなが元気で、かんとかや連盟の人達が試合や大会の準備をしてくれたおかげだと気付きました。試合や大会ができるようになってからは、一試合、一試合を大切にしようになりました。そして、これまで以上に集中して、感謝の気持ちをもって、試合に臨むようになりました。

二つ目は、自分の健康に、今まで以上に気を付けるようになったことです。日本ではコロナにかかった人がたくさんいます。亡くなった人もいます。ぼくは、手洗いやマスクはもちろんだけど、毎朝の検温や消毒も、当たり前前にするようになりました。これからは、自分や周りの人達のために、病気になるようにしたいです。

中学校

ウィズコロナで感じていること

夏尾中学校

三年 迫間 光里

中国で問題となっていた新型コロナウイルスが、今年に入って日本でもやはり始めました。私は最初は全く危機感がなく、自分は感染しないだろうと思っていました。しかし、東京、大阪などの大都市で感染が一気に広がり、九州、ついに宮崎での感染者が出た時にウイルスの危険性を実感しました。

ウィズコロナという聞こえは良いだけの、病気がつねに近くに潜んでいる生活は大変なものでした。外出時のマスク着用はもちろん、消毒、人と人の距離を保ち、不要不急の外出ができないといった制限が続きました。学校生活にも、もちろんその影響が出てきました。まずは、新学期になってすぐ始まった休校です。先輩方の卒業式に参加できず、自分も三年生になったという実感がしばらく湧きませんでした。やっと学校が通常どおりに始まった。学習の遅れや、交流会などの中止、運動会、文化祭の短縮といった慣れない学校生活が続きました。しかし、そんな中でも全校生徒が思いに残る学校行事にしたいという一心で物事に取り組んだ結果は、今までの学校行事と同じくらい充実感があり、感動できました。いつもと全く違う状況だからこそ、生徒全員が一丸となることができたんだと思います。

新型コロナウイルスの影響はまだまだ続くと予想されており、昨年よりも物事がスムーズに進まないかもしれないと定め、どんな状況でも乗り越えられるよう、頑張っていきたいと思えます。



コロナ禍で考えたこと

高城中学校

二年 首藤 沙綾

私はこの時期にたくさんの疑問に出会い、たくさん考えました。

今年、多くの行事が中止・規模縮小されました。学校生活最後の行事「卒業式」。私たちが在校生は先輩たちを見送ることができず悲しく思いました。7月には落ち込んだ経済を活性化させようという目的からGOTOトラベルが始まりました。

ここで私は少し「私たちは修学旅行に行けないのに、なぜ大人の人はいいの」と思いました。でも修学旅行に行けないのは私たちが家族を守るためと分かっていた複雑な気持ちでした。

いろいろな疑問の中で特に不思議に思ったことが、感染者やその家族、他県の人へのいやがらせ・いじめです。ニュースを見てみると、その人は感染したくて感染したわけでもないのに陰で悪口を言われたり避けられたり、車のナンバーが違っただけで車に傷をつけられるという事が起きています。私のおじも何年も前に帰ってきているのですがナンバーが地元ではないため車に傷をつけられてしまいました。自分にされたら腹をたてるし、悲しむはずなのにと感じていました。

この状況の中で気付けた事もありました。それは考えることです。疑問が生まれることによって私は自分の中で仮説を立て、理由を考えました。また、この状況の中どうすれば悩みや苦しみと和らぐのか、これを少しでも多くの人が考えることが大切だと思えます。私の考えた苦しみが和らぐ方法は、一人一人が周りの人を思うことです。身近な人のことを思いながら行動すれば、それはいろいろなところや人につながっていくのではないのでしょうか。私はそう考えます。

「今」を大切に

志和池中学校

二年 平原 梨帆

二〇二〇年も、もうあと一か月を切った。今年はどうな一年だったろう？思い返してみたら一番最初に思い浮かぶのは新型コロナウイルスの流行だ。

新型コロナウイルスの流行により、私たちのいつもの日常はガラリと変わった。朝起きて学校に行き、仲間と共に勉強したり、会話を交わしたり、給食を食べたり、など当たり前だと思っていた日常は、一瞬にして非日常へと変わった。学校は休校となり、毎日のように会って会話をしていた仲間とは顔を合わせることもできなくなった。しばらくして休校も終わり、自粛も緩和されたが、かつての日常は全て元に戻った訳でもなく、感染者は増える一方である。

今年を振り返ってみると、あまりいい年ではなかったとも言える。しかし、こんな世の中だからこそ私は大切なことに気付くことができた。それは「今」を大切にすること。新型コロナウイルスは、いつ、どこで、だれが感染してもおかしくない。だから、自分の大切な家族や友達に感染し、身近な人をいつなくしてしまうかも知れない。「今」を大切に、家族や友達と過ごせる時間は当たり前ではなく、いつ崩れてもおかしくない状況だということとを忘れないようにしたい。

自分が感染対策をすることは、もちろん自分を守ることもできるし、誰かの命も救っているのかもしれない。コロナウイルスは決して他人事だと思わず、これからも自分だけでなく、周りの人の命も救えるように感染対策を続けていきたいと思う。



去年の当たり前は特別に

山田中学校

三年 荒神 那海

未知の恐怖というものは、全てをぐりぐりと変えました。当たり前に感じていたものは特別へと変わり、マスクをしている姿が私たちの日常と化していました。さらに、中学生生活の中での行事もこれまでは違う、新しいものとなりました。例えば、体育大会や文化祭です。体育大会では競技項目や開閉会式の短縮が行われ、文化祭では、一・二年の学習発表が削られました。去年の私たちは、今回の行事がこんなにも変わるなんて予想してませんでした。

「二年生最後の給食はカレーか。二月二十八日。その日が、私たちが二年生として給食を食べた最後の日でした。全校休校が開始されたからです。二月の前までは、私たちは当たり前に四月まで二年生として給食を食べ続けるのだと思っていました。まさか、あの日で二年生の日々が最後だなんて、誰も思っていませんでした。三月一日からの昼食は、親が作ったお弁当に変わりました。いつもならみんなと机を向かい合わせて、わいわいと話しながら食べていたのに、なんで今は一人で食べているのだろう。」と何度も思いました。静かに、何も話さずに食べる昼食に、私は覚え、寂寥(せきりょう)感が胸にこみ上げました。

このように、去年までの当たり前は、今の私たちにとって特別へと変わりました。新型コロナウイルスという、たった一つの恐怖で、生活の何もかもが新しくなってしまいました。しかし、だからといって嘆くばかりではないと思います。これからの世界だからこそできることを、私たちは考えねばなりません。それが、私たちの使命なのだと思います。これまでの当たり前を忘れず、新しい当たり前をつくっていきます。

人生の財産

中郷中学校
三年 熊谷 正護

あの仲間たちと、もう一度野球がしたい。僕は、野球部のキャプテンをしていた。キャプテンとして、やるからには頑張ろう」と前向きな気持ちでスタートしたものの、実際には全然うまくいきませんでした。みんなに気をつかうあまり、言いにくいことがうまくいえず、悩み、キャプテンを辞めたいと本気で思っていました。そんなとき兄から、「チームのキャプテンはお前なのだから、お前が変わらないとチームは変わらない。」と言われました。それから、自分が積極的に動くこと、何もかも一人で抱えるのではなく、みんなにも頼ることを心がけるようにしました。すると次第にみんなも自分から動いてくれるようになり、チームに一体感がうまれてきました。そんな中、新型コロナウイルスによる突然の休校。登校も部活動もできない日々の中、自主練をして日々を過ごしました。そして、練習再開。以前あった、やらされている感じがなくなっていました。休校中、自分で考えて練習してきたことが、結果的に、チームの成長につながったのです。そして、迎えた最後の大会。決勝戦の最終回、5対1でリードされて、ツアアウト、三塁。あと一つ取られたら、負けという状況にまで追い詰められていました。しかし、僕たちはあきらめていませんでした。代打で出た友達のヒットからの巻き返しの結果僕たちは同点に追いついたので。僕は、野球を通して、学んだことがたくさんあります。最後まであきらめないこと、仲間を信じる、そして、何より挑戦こそが自分を成長させてくれるということ。何もしなければ何も生まれません。僕は、十人の仲間たちに出会え、この仲間たちとともに、たくさんの感動を味わうことができた。こんな僕に成長させてくれた十人の仲間たちは、僕の誇りです。ありがとう。

コロナに負けない

祝吉中学校
三年 古川 凜人

今年、コロナウイルスの影響によって、自分が思い描いていた日常が突然崩れました。学校が休みになったことにより、勉強がはかどらず、友達とも会えない日々が続きました。最初は、学校が休みになって喜んだ人も多かったと思います。しかし、次第に何もできないということに、ストレスを感じるようになりました。その後、ようやく全員がそろっても、学校行事は縮小になったり、中止になったりしました。中学校で最後の体育大会、文化祭、ロードレース大会が例年通りできないのは悔しくてしかたがありませんでした。生徒会役員としても、全体的な学校の雰囲気落ち込んでいるように見えて、少しでも明るさを取り戻そうと、様々な活動を行いました。まず、挨拶の活性化に取り組みました。毎朝、正門や自転車小屋の前に立ち、挨拶をする環境を作りました。すると、「おはようございます」という言葉が飛び交うようになり、少しずつ、全校の雰囲気が明るくなりました。次に、生徒集会の時間に、全校で盛り上がるようなレクリエーションを行いました。各学級の委員長に協力してもらいました。その結果、どのクラスからも笑い声が聞こえてきて、大成功で終わることができました。今年はいくつかのところで我慢を強いられる年になりました。何か物足りないと感じられることも、多くありました。ですが、そのような雰囲気はなくすために、いろいろな人が動いてくれています。自分達のために動いてくれている人がいることを知り、感謝することを、今回のコロナ禍に教えてもらいました。現在再び感染者が増加してきています。このような状況でも一生懸命頑張っている人がいます。そんな人たちのように、自分達も、コロナに負けず頑張りたいと思います。

コロナ禍をどう捉えるか

小松原中学校
三年 松本 琴美

約九か月前私たちの生活を大きく変える出来事が起こりました。これが新型コロナウイルスによる自粛生活の始まりだったのだと今になって感じます。私はコロナ禍の生活の中で「プラスに考える」ということを心掛けました。そうすることで継続するという精神を自然と身につけることができました。約一か月の休校期間中、私は犬の散歩のため早起したり昼食作りをしたりすることで新しい自分の趣味を見つけ充実した生活を目指しました。そして、決して忘れなかったのは勉強です。一日六時間勉強することを決め日々努力し続けました。その成果もあって自粛明けのテストでは自分の納得のいく結果を出すことができました。コロナ発生当時、私の従姉妹は中国に住んでいました。しかし、コロナの影響で日本に帰国することが決まり、その数日後、日本人の中国からの一時帰国が増加しているというニュースを目にしました。予想はしていたものの、そのニュースを目にした周りの人の反応はあまり良いものではありませんでした。居住していただけなのに、と感じると共に実際私も身近に帰国する人がいなければ同じように感じていたかもしれないと思うと、自分の言動には気を付けなければならぬと思います。最近では感染者や医療従事者の方々への偏見・差別が多いように感じます。医療従事者の方々は感染した人々を命がけで助け、くれようとしています。そのような方々への態度がこれで良いのでしょうか。私はそうは思いません。患者を助けてくださる医療従事者の方々への感謝の気持ちは忘れてはならない大切なものだと思っています。現在、ワクチン開発・治験が進められていますが未だ終息の糸口が見えません。また、現在の第三波発生により、思い通り行動できない自粛生活が続くと思います。その中で、「この時代だからしかたがない」ではなく、「どうしたらこのコロナ禍を乗りこえられるか」を考え、時間を無駄にせず有意義に使っていきなさいです。

「料理」との出会い

都城泉ヶ丘高等学校 附属中学校
一年 外山 悠月

「明日から学校は臨時休校になります。」小学校六年生の終わりに続いて中学に入學したばかりの四月末に再び臨時休校となった。新型コロナウイルスによる措置の一つだが、それは私に思わぬ出会いを与えてくれた。出会った相手は「料理」である。それまでは、カップラーメンや卵焼きなど、簡単なものは作ったことがあった。しかし、家で過ごす時間が長くなり、私たち姉弟は、自然と「自分の分は自分で作る」ことが当たり前と考えるようになった。この意識の変化は、私の足を台所へと向かわせた。そのうち、自分の分だけでなく、みんなが食べるのも一緒に作ったほうが効率が良いことに気付いた。私の家族はみんなよく「食べる」。だからみんなが「食べる」量を意識しながら調整して作る。残さず食べてくれると嬉しい。調子に乗った私は、朝、昼、夕飯、父と弟のお弁当まで作ってしまった。では、休業中の私の台所での過ごし方を紹介しよう。まず冷蔵庫を開けて食材の確認。タブレットを駆使し、レシピの調査。足りない食材の代用食材を思考。料理中みんながおいしく食べられるように工夫。思い浮かべるのは、みんなの笑顔、それだけだった。実は私の料理の師匠は母だ。いつも当たり前のように家族のため料理をしてくれていた。自分で料理するようになり母の偉大さが分かるようになった。食卓に料理があることは、当たり前ではない。それに気付けたことは、私の成長だと、少しだけ自信をもった。コロナ禍は、私たちから多くのものを奪った。それは確かだ。しかし、私たち人間は、強い。コロナ禍をきっかけに、私は「料理」と出会い、自分の成長を少しだけ感じることができた。その背景に、家族の存在、家族の笑顔があることは言うまでもない。

事務局だよ

今後の市P連のカレンダー 令和3年度

★市PTA連絡協議会 総会

◎期日 令和3年5月15日(土)
14時30分～16時30分
◎会場 MJ ホール 中ホール

★広報担当者講習会

◎期日 令和3年5月22日(土)
◎会場 中央公民館

受賞おめでとうございます

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| ●九州ブロックPTA協議会表彰(団体) | 都城市立有水小学校PTA |
| ●宮崎県PTA表彰(団体) | 都城市立吉之元小学校PTA |
| ●宮崎県PTA表彰(団体) | 都城市立沖水中学校PTA |
| ●宮崎県PTA表彰(個人) | 都城市立姫城中学校
PTA会長 田中 貞光 様 |

お知らせ

市内各小中学校に「非接触型体温計」を市P連より配布いたしました。
(令和2年11月24日～11月27日 配布済)

編集後記

今回初めて広報紙「つなぐ」の編集に携わらせていただきましたが、前回23号同様に編集委員が集まる事ができませんでした。

今まで当たり前のように行っていた学校行事が出来ずに大変な一年になりました。

そこで今回は子どもたちの思いを載せることにいたしました。

コロナ禍で二回の緊急事態宣言を経験し、当たり前のことができず苦しい思いをした中で、子どもたちは前をむき成長しています。学校・地域・保護者が「つなぐ」で都城の宝である子どもたちを守っていきたいですね。

編集委員 南 伸也

編集委員

野口 勇心	相良 照代	松山 浩一郎	南 伸也	山 菅 恵美子	眞 方 春 弥	原 口 辰 弘	東 口 美 紀	山 田 忠 夫	岩崎 元子
橋 詰 和 弘	長 峯 剛 士	岡 元 健 太	木 下 和 久	綿 屋 幸 代	高 木 か お る	開 坂 賢 樹	盛 留 賢 樹		